

報告者：静岡サレジオ小学校 末吉弘治
原田 卓

1 日 時 平成 28 年 11 月 21 日（月）、22 日（火）

2 ねらい

地方私学でありながら先進的な独自の学習システムを導入し、募集も飛躍的に伸ばしている 2 校の校長先生からご講話いただくとともに、実際に授業や取り組み、学校施設を視察させていただき、学んだことを自校及び本県私学小学校の経営に生かす。

1) 聖ウルスラ学院英智小学校では、小中学校 4・3・2 制＋高等学校 3 年の一貫教育システムでの子供の育ちと学力向上についての学習や生活指導の在り方を学ぶ。また、教科として導入している「言語技術」の授業研究をするとともに、身につけた知識や技能を土台とし、言語活動を中心に課題解決型の学習への展開の考え方や方法を学び、新学習要領に対応する授業づくりにつなげる。

2) 仙台白百合学園小学校では、力を入れている英語教育について学ぶ。英語教育に関しては 2 つのコースを設定しているが、英語と算数をオールイングリッシュで学ぶ CLIL（内容言語統合型学習）コースを中心に授業研修を行い、その成果と課題から、私学の教育の軸となる英語の授業づくりを考える。

3 スケジュール

視察校：聖ウルスラ学院英智小学校 仙台市若林区一本杉町1-2
仙台白百合学園小学校 仙台市泉区紫山1丁目2-1

平成28年11月21日（月）

聖ウルスラ学院英智小学校訪問 授業参観、施設見学及び学校説明

平成28年11月22日（火）

仙台白百合学園小学校訪問 授業参観、施設見学及び学校説明

仙台文学館 視察

4 参加者（計 5 名）

- | | | |
|-----------------|-----|------------|
| ・加藤学園暁秀初等学校 | 副校長 | 佐藤 誠一 |
| ・東海大学付属静岡翔洋小学校 | 校長 | 小寺 建仁 |
| ・常葉大学教育学部附属橘小学校 | 校長 | 永田 研 |
| ・静岡サレジオ小学校 | 校長 | 末吉 弘治（部会長） |
| ・静岡サレジオ小学校 | 教諭 | 原田 卓（副部会長） |

5. 研修報告

聖ウルスラ学院英智小学校（11月21日）



聖ウルスラ学院は、小学校から高等学校までが同じ敷地内にあり総合的な教育が行われている。ウルスラはカトリックミッションスクールとして、キリスト教の人間観に基づく人格形成を目指す児童・生徒個々の自己実現の育成を教育目標としている。

その考えを受け、2005年度より小学校・中学校の教育課程を、ファーストステージ、セカンドステージ、サードステージの4・3・2制の一貫教育とし、教育課程特例校として希望力をみにつけることを目指した人間形成を目標とした教育を実践している。また、週6日制とし、それぞれのステージにおける教育目標を設定し、基礎力の徹底と学力の向上を目指している。

ファーストステージでは、学力の基礎・基本を習得するために、授業→振り返り・スキル→繰り返し・ドリル→チャレンジを繰り返し行う。その中で、「自ら考え、課題をみつけ、解決するちから」や、「学び方」を身につけ、児童がそれぞれの能力や特性に合わせて、学習を発展させていくことのできる自律した学習力を身につける。続くセカンドステージでは、知的好奇心の増大と思春期心理の芽生えに応じた学習の充実を図り、応用・発展的学力と充実した内面の育ちを実現するための授業が展開される。集大成であるサードステージでは、論理的科学的な認知能力・柔軟な思考力と、責任感ある能動的な行動形態が可能になる時期として、難度の高い学習にも対応できる学力を身につかせ、同時に愛と希望に満ちた深い内面の育ちを実現させるためのカリキュラムが組まれている。そのため、サードステージからはType-1、Type-2というクラス編成をし、それぞれの目標に合わせた学習を行うようになっている。



このすべてのステージにおいて、最も特徴的な取り組みが、言語技術の導入である。ウルスラでは、文科省より研究開発校の指定を受け、言語技術を教科として設定し、週1時間授業を行っている。言語技術は先生方が研修を受け、1～6年までは担任が担当し、7年生以上は専科教員が担当している。この週1時間の授業が他のすべての教科の時間にも応用され、思考力、表現力を伸ばす。視察当日は、週末に行われる公開研究会のポスターセッションのリハーサルを見せていただいた。言語技術での学びを生かし、1年生から9年生までが合同で、発表の練習を行っていた。小さな学年でも、組み立てをしっかりと考え、伝わりやすいように話すことができていた。また、参観した児童、生徒が発表の内容や話し方について必ず質問をし、発表がよりよくなるためのアドバイスを伝えることができていた。言語技術の授業において、言語の4技能に思考の方法をしっかりと身につけることができれば、思考を論理的に組み立て、相手に伝わりよう話したり表現したりするスキルが備わるのだろうと感じた。

当然、この学習は普通の授業にも生かされており、テキストの分析や討論、プレゼンなどが行われているとのことだった。言語技術の手法を用いると、国語の文章教材の読み取りは半分の時間で行うことができ、残った時間をより有用な学習に時間として用いることができるそうだ。



これと関連して、メディアセンターとしての学校図書館も整備されており、大変使いやすい空間構造となっていた。また、新聞を活用したNIEにも積極的に取り組んでおり、ここにもテキスト分析等の言語技術の学びが生かされていた。



まだ、小中学校校舎に関しては2012年に建築された新しい校舎であるため、子供たちにとって使いやすく、過ごしやすい空間となっていた。言語技術を中心に、英語教育、宗教教育にも力を入れており、一貫の良さを生かした全人教育が行われていた。さまざまに先進的な取り組みをされている聖ウルスラ学院英智小学校であるが、伊藤校長先生が、教員として最も大切なことは授業を構築することであり、何よりも基本的な授業の展開術を身につけていなければならないとおっしゃっていたのが印象に残った。

仙台白百合学園小学校（11月22日）



仙台白

百合学園は、同一キャンパス内に、幼稚園、小学校、中学校、高等学校がある総合学園である。2012年に仙台市郊外に移転し、広大な敷地のなかに、非常に余裕のある校舎建築がなされている。仙台白百合は女子教育を行う学校であり、女性としての品性を育みながら、小学校6年間で、人に対しても、ものごとに対しても、いつも丁寧にかかわる感性を磨くことを大切にし、そのための基礎となる確かな知力を身につけることを目指した教育を行っている。また、カトリックミッションスクールとして、従順・勤勉・愛徳という校訓のもと、祈りに始まり祈りに終わる学校生活の中で人間として欠

かすことのできない思いやりのある素直な子どもを育てるという教育を実践している。

仙台白百合の取り組みとして、最も特徴的なのは、今年度より導入したCLILコースである。CLILとは、内容言語統合型学習を示す Contents and Language Integrated Learningの頭文字をとった学習方法である。協同的な学びの中で、Cognitionを最も大切にする考え方で、



母国語以外の言語（主に英語）を使いながら他の内容を学ぶことで、言語も内容も理解するというものである。白百合では今年度より、算数と英語をCLILで学ぶコースを募集し、現在15名の児童がこのコースで学んでいる。通常は他の児童と同じ学級で過ごし、算数と英語の時間のみ集まって学習をしているということだった。視察当日は算数の授業を見せていただいた。オールイングリッシュで、ALTの先生が主になり、日本人の先生とチームティーチングで授業は進められていた。算数の授業ではあるが、さまざまな事象について先生が英語で話し、それに対して子供たちが英語で答えるという中で、非常にリッチなインプットがされていると感じた。また、思考の時間を十分にとっており、説明を書かせたり友達同士で教えあったりする作業を多くとっていたのも印象的だった。コミュニケーション力や課題発見・解決能力の育成につながると感じた。15名の児童のうち11名は、同じ泉区にある明泉幼稚園という幼稚園から入学している。明泉幼稚園は非常に特徴のある保育を行っており、すべてオールイングリッシュのため、このCLILのクラスでも英語でのコミュニケーションが普通に行われていた。仙台は新しくイマージョンの小学校も新設され、非常に英語に対する意識が高まっているように感じた。今後はこのCLILの授業を、算数以外の教科にも発展させていきたいとのことであった。



この日は、ちょうど研究授業日にも当たっており、1年生の国語の授業を見せていただいた。「じどうしゃくらべ」の説明文の分析の授業であったが、ICT機器を用いて、子供たちの考えをクラス全体でシェアしながら学習を進めていた。子供の学びにつながる環境の整備という点でも進んでいると感じた。



図書室は学校の入り口から一番近い場所にあり、一日中いつでも利用できるようになっている。学校の中心は図書館であるという考えの下、楽しい読書と考える読書を進めている。また、情操教育の一環として、ヴァイオリンを学校備品として用意し、3年生よりヴァイオリンの演奏を授業に取り入れている。



校舎が新しく、また、余裕のある敷地に建っていることもあり、非常にうらやましい環境である。特に学童用の専用棟があり、そこで専門のスタッフが受け入れる体制を整えているというのも保護者にとってはうれしい配慮であると考えられる。また、スクールバスの運行に関しては10ルート、100のバス停に停車するというシステムにも驚いた。募集の一環として、教育システムと環境整備という両面から取り組んでいると感じた。

仙台文学館



仙台文学館では、初代館長である井上ひさしの小説や演劇などの作品やその考え方に触れるとともに、仙台を舞台とした作品や仙台にゆかりのある作家についての展示を見せていただいた。仙台を拠点とする現代作家も多く、文学の街としての仙台の魅力を再認識できた。

研修を終えて

仙台の私立小学校は、新設されたホライゾン学園を含め4校と少なく、そのうち3校がカトリックミッション校であるが、それぞれの学校が独自の教育システムを打ち立て、積極的に先進的な教育に取り組んでいると感じた。ウルスラは言語技術、白百合はCLILと中心とする取り組みを進めるとともに、環境の整備にもしっかりと取り組み、子供たちにも保護者にも満足してもらえるような学校づくりをすることにより、募集にもつながっているのだと感じた。同じ地方の私立学校として、私たちが学ぶべき点が非常に多く、良い点を還元させていただきたいと思う。また、先進的な取り組みを研究するとともに、私たち教師にとって一番大切な、授業を展開する力をしっかりと高めていかなければならないと感じた。